

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立緑小学校
校長名	水谷 光一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学年教科ごとの状況を見ると、概ね全国値と同等の正答率であり、良好な結果と言える。・各教科を観点別で見ると、4教科とも「関心・意欲・態度」の正答率が高く、学習意欲が高いと言える。・各教科を内容別で見ると、4教科とも「基礎」の正答率が高く、基礎基本が身に付いてきていると言える。	<ul style="list-style-type: none">・各教科を観点別で見ると、国語の書く能力で目標値を下回る。自分の考えを表現することに課題がある。・各教科を内容別で見ると、「活用の思考・判断力・表現力」については、目標値を下回る教科が見られた。身に付いた知識や技能を活用する力、自らの思いや考えを表現する力を高めることが課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「学級環境」の中の「学級の規範意識」の項目について、肯定値が高い。児童が落ち着いた学級風土の中で、学習に取り組んでいることが分かる。・「自己認識」の中の「充実感と向上心」の項目についてよい結果が出ている学年が多い。意欲的に学びに向かい、学習に取り組んでいる児童が増えてきている。	<ul style="list-style-type: none">・「生活・学習習慣」の項目に課題がある。日々の学習準備や家庭学習(時間、内容、計画性)の充実、自己の課題を合わせた復習の定着については改善の必要がある。・「社会性」の項目の「問題解決力」「思いを伝える力」に課題がある。自ら課題をもち、解決したり、自分の考えを分かりやすく伝えたりすることができるような授業改善の必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・問題解決学習を積み重ねることで、学習の仕方が身に付き、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようになった。・学習の振り返りを行うことで、知識を他の学習に生かしたり、新しい疑問を次の学習につなげたりするようになった。・対話の場面では、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。	<ul style="list-style-type: none">・問題解決のどの過程においても個人差があり、全体として深めていくには、まだ課題がある。・自分の考えを伝えることはできるが、対話によって考えを深めていくことには課題が残った。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習環境の整備、学習習慣の定着

- ・保護者会、個人面談での「みどりスタンダード」の周知徹底。「家庭学習のてびき」を再発行して各家庭への啓発を行い、家庭学習の習慣化を図る。
- ・e-ライブラリーを使った家庭学習のための環境整備。家庭でも、それぞれの課題に合った学習に主体的に取り組めるようシステム化する。教員が取り組み状況を把握できるようにする。
- ・ICTの活用・ホワイトボードの活用・ノート指導を通して、見方・考え方を働かせる授業を意識して行う。

(2) 言語活動による自己の考えの深化、発展

- ・自ら考え、自分の思いや考えを生かした課題に向かう学習活動を取り入れ、授業改善を進めさせる。
- ・場面に合った言語活動により、各自の思いや考えのよさを、共有したり深めたりできるようにする。
- ・振り返りの時間を設定し、知識の再構築を行う。また、児童の新たな疑問を次の学習につなげたり、他の学習に生かしたりできるような単元構成を工夫する。

(3) 個や少人数に応じた指導の充実

- ・個の定着度に合わせた「振り返りシート」「東京ベーシックドリル」の活用を図る。
- ・放課後すみだ塾での少人数指導、学校支援指導員による個別指導。
- ・算数の習熟度別学習では、児童の実態に合わせた活用問題に取り組みさせる。e-ライブラリーを活用して、個の課題に応じた予習・復習ができるようにする。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・国語「書く」項目において、どの学年でも目標値を上回るようにする。
- ・考える力の正答率を期待値より2ポイント上げる。
- ・各教科の活用問題において、正答率3ポイント上げる。
- ・E・D層の割合について、本年度を超えないようにする。